

## 友のためにいのちを捨てる

ヨハネによる福音 15:9-17

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。） 「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

### 説教

ヨハネの福音書は四つある福音書の中で、イエスが「人の子」としてではなく「神の子」として意識的に（明示的に）ふるまう場面があります。きょうの福音（先週から朗読している15章）に神の子としてのイエスが顕著にあらわれています。

イエスは人間なのか、それとも神なのか、という問題は初代キリスト教会にあっても大きな疑問、問題としてありました。教会はこの「人なのか、神な

のか」問題を二性一人格という教理としてイ・ロジカル（論理的ではなく）に受け入れました。キリスト教は理屈ではなく信仰として「イエスは人なのか神なのか問題」受け入れてきました。

さて、

**15:12 わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。**

**15:13 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。**

とあります。命を捨てるという物騒なことをイエスは愛として弟子たちに諭しているようにも読み取れます。ここでは命を捨てる（友のために）ことのすすめをイエスは説いているのでしょうか。

命は大切にしなければいけないと思うのですが、どうしてこんなことをいっているのか？聖書の解説・注解には、これは当時の格言の引用だとあたりもします。

またほかの日本語訳聖書（新改訳）では

**人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。**

となっていて、なんか微妙に否定しているようないいまわしで訳しています。この訳では、だれも持っていないのなら死ななくてもいいのかとも解釈できないことありません。

「友のために自分の命を捨てる」このみ言葉にわたしが違和感を感じるのは、ようはこれがカッコウがいいからです。娘のために、息子のために命を捨てる、妻のために夫のために命を捨てる、家族のために命を捨てる、国家のために命を捨てる、自分の命を自分以外のために捨てる、これは自己犠牲であり、これこそが愛なのだ、といわれたら反論の余地がありません。でもちょっとしらけるでしょう。カッコウいいこと、正論？英雄的なことを語られるとわたしはとまどい、疑いをもってしまいます。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。

12,13 節の前の 9 節にはこのようにあります。この前後関係からこれはヨハネ特有のいいまわしではないかと気づきました。

マタイ福音の 22 章にこうあります。（平行箇所マコ 12:28、ルカ 10:25）

#### ◆最も重要な掟

ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」 22:34-40

イエスは愛（アガペー）を説きました。神がモーセに与えた律法が守られていない、守っていても律法自体を目的にしてしまっている、当時のユダヤの社会が神の掟、十戒を守っていない状況におちいつてしまっていたので、神の律法をバージョンアップして二つの愛、“神への愛、隣人愛” にまとめあげました。それがイエスが説いた愛であり、それこそが福音でした。

イエスの掟（二つの愛）を守るだけで無条件に赦される、罪はもうない、神の国にいける、これがイエスの説く愛であり福音です。

イエスの説いた隣人愛を「互いに愛し合いなさい」といういいまわしにしてヨハネ福音書では新しい掟とっています。

神への愛「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」は「わたしの愛にとどまりなさい」という言い方になっていると考えられます。

ここでのイエスは神の子イエスです。

**15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。**

父がイエスを愛された⇒わたしもあなたがたを愛した⇒わたしの愛にとどまれ、これが神を愛することと同様な意味をもつ、という事ではないでしょうか。

**15:14 わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。**

イエスは掟を守るならば、わたしたちを「友」と呼ぶといわれます。神はとうぜんながら被造物である人間を友とは呼びません。しかし、友よとわたしたちを呼ぶことができる、これこそが神の子イエスの真骨頂です。インマヌエル（神はわれらとともに）のキリストです。

**15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。**

イエスは「選び」について説明します。神がアブラハムを選らんだように、そしてユダヤを選んだように、イエスはわたしたちを選びます。わたしたちとはイエスを信じる人たちのことをいっています。イエスの福音はアブラハムの選び、ユダヤ人の選びを超えて人類全体に響いています。イエス・キリストを信じることで、信じるものたちはすでに救いを得ています。

-----